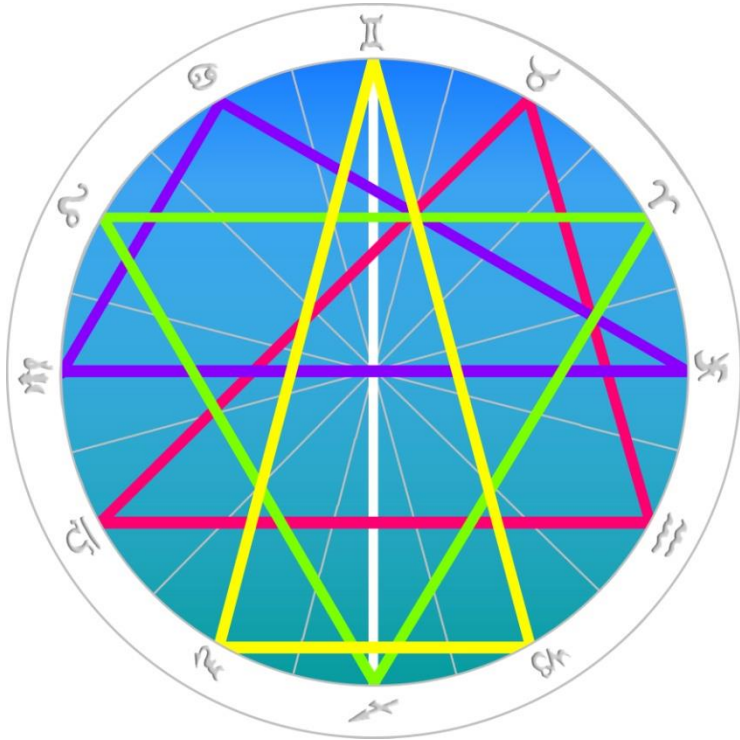


## 第1部 アスペクト辞書

### ガイド：辞書の見方



聖画 AD.1 アスペクト瞑想図(東方ミトラ教)

——東方ミトラ教(明教)の経典『ケファライア』69(166,31-169,22)に説かれているアスペクト。説かれているアスペクトは、0度、60度、90度、120度、150度で、対向、大三角形、大十字、調停の座相、神の指などを形成している。

## ガイド

本書のアスペクト辞書は、ごく一般的な占星術で使えます。普通に使うだけで、いつのまにか、ピタゴラスの神秘数論と占星医学の基礎が身に着くようになっていきます。

## 辞書の構成

### 項目の配列

使いやすいように、太陽、月、水星、金星、火星、木星、土星、天王星、海王星、冥王星、りゅうとう らごう りゅうび けいと龍頭(羅喉)、龍尾(計都)、ASC、MCの順番になっています。

### 解説内容

#### 太陽、月、水星、金星、火星、木星、土星、天王星、海王星、冥王星

2つの惑星\*の組み合わせが、太陽と月、太陽と水星…という順番で並べられています。どの組み合わせも、神秘数論(後述)と占星医学(後述)それぞれの立場からの解説が記されています。

\***惑星** 占星学では、太陽と月も惑星と呼びます。

#### りゅうとう らごう りゅうび けいと龍頭(羅喉)と龍尾(計都)

基本的なことの解説は第2部・第6章にまとめてあります。

辞書部には、龍頭(羅喉)と惑星の組み合わせは龍頭のところに、龍尾(計都)と惑星の組み合わせは龍尾のところにまとめてあります。

神秘数論や占星医学ではなく、輪廻転生と関係しているので、解説はその観点から記されています。

## ASC、MC

基本的なことの解説は第2部・第4章にまとめてあります。

辞書部には、ASCと惑星・龍頭・龍尾の組み合わせはASCのところに、MCと惑星・龍頭・龍尾の組み合わせはMCのところにまとめてあります。

ASCとMCの解説は、占星医学的なもので、生物学的なゴークラン効果を踏まえています。ゴークラン効果については、本書の第2部・第4章の「ハウスの見方」の「四枢軸点:ゴークラン領域とその効果」を参照してください。

## 基本

ここには、いわゆる「普通の占星術」(頭教占星学<sup>けんきょうせんせいがく</sup>) Exteric Astrology の伝統的で一般的な見方が記してあります。

普通の西洋占星術の伝統的で一般的な見方というのは、古代ギリシャ・ローマ時代にピタゴラスの神秘数論から生まれた見方のことです(詳細は第2部・第7章で説明)。ギリシャ・ローマ時代には、神秘的な見方とされていましたが、いまでは西洋占星術の一般的な「アスペクトの見方」になっています。実際、こんにちでも欧米の占星術書の解説はすべて、これに基づいています。心理占星術も、もちろん含まれます。

本書では、この基本的な考え方がよく分かるように説明しています。

解説は、つぎの4つに分かれています:

- ・コンジャンクション  $\delta$  (0度)
- ・スクエア  $\square$  (90度)
- ・トリン  $\triangle$  (120度)とセクステイル \* (60度)
- ・オポジション  $\wp$  (180度)

・クインティル(72度)とセプタイル(51度) …この2つはトリンやセクステイルと同じなので、そちらを参考にしてください。微妙なちがいのについては、本書・第2部の第7章で解説したので、そちらを参考にしてください。

・セスキコードレート(135度)とインコンジャンクション(150度) …この2つは弱いスクエアと同じなので、スクエアのところを参考にしてください。くわしくは、本書・第2部の第7章で解説したので、そちらを参考にしてください。

## 占星医学

ここには、医学・生理学・生物学的な見方が記してあります。これも、ひきょうせんせいがく「秘教占星学」 Esoteric Astrology の見方です。この知識を自己変容、成長、意識進化を進めるためのシステムにしたものが秘儀 Mystery で、修行法にしたものが錬金術 Alchemy です。最近の欧米では、心理占星学と組み合わせて、「星のセラピー」 Astrotherapy、「星の錬金術」 Astroalchemy などというものになっています。

解説では、2つの惑星の作用の組み合わせが、身体、気分、意識にどのような影響を与えるのかを、医学・生理学・生物学的から説明してあります。

これは、いわゆるおうぎ「奥義」(秘密の知識)で、古代・中世においては、星の教師たち(カルデアン・マジ、ラビ、シャイフ)だけが所有していた知識で、《ミトラのほし秘儀》や「星のれんきんじゆつ錬金術」の基礎になっているのは、この知識です。

近代以降の欧米では、ウィリアム・リリー(英国)、エバーティン(ドイツ)、ジェーン・リッター・パトリック(英国)らにより医学知識の近代化・現代化が行わ

れています。本書の解説は、これらを踏まえたものになっています。

解説は、アスペクト別ではなく、調和と不調和の 2 つに分けてあります。

下記のアスペクト(ソフト系)は、「調和」のところを見てください。

- セクステイル\* (60 度)
- セプタイル (51 度)
- トリン△ (120 度)
- クインティル (72 度)

下記のアスペクト(ハード系)は、調和の場合と不調和の場合があるので、「調和」と「不調和」の両方を見てください。

- コンジャンクション♌ (0 度)
- スクエア□ (90 度)
- オポジション♋ (180 度)

セスキコードレート□ (135 度)とインコンジャンクション⊖ (150 度)も、ハード系と同じ見方をしてください。

## 辞書の見方 (使い方)

アスペクトの意味を調べるときには、まず最初に、「基本」のところを見て、いわゆる「普通の占星学」的な見方をおさえます。

つぎに、「占星医学」のところを見て、身体と意識にどう影響を与えるのかを調べます。

龍頭(羅翻侯)と龍尾(計都)の解説は、神秘的な輪廻転生説と結びついているので、その観点からなされています。

ASCとMCは、占星医学的な観点からなされています。さらに深く詳細に知りたいときには、岡庭『秘密のサビアン占星学』の第10章「十二星座の秘密」が特に便利で役に立ちます。

惑星・ダイモーン別のアドバイスを組み立てるときには、岡庭『秘密のサビアン占星学』の第5章「惑星とダイモーンの秘密」が特に便利で役に立ちます。

[目次へ](#)

# 辞書本体

## 太陽と月

### 基本

#### 組み合わせの基本的な意味

太陽は、活気・意欲・気力・向上心を与える。月は、生活のリズムを定め、日常生活を習慣付ける。さらに気付きの力を付与し、さまざまな調整を行わせる。この二つの作用が調和すると、生活にはりが出て、生き生きとしてくる。しかし、太陽と月がハード・アスペクトをつくっているときには、この二つの間に摩擦が生じる。活力と生活リズムが合わず、空回りする。日常的な生活態度や慣習・癖を改めない限り、進みたい方向に進めない。

以上の基本的なことに、主要なアスペクトの意味を加味すると、下記のようにさらに詳細化される：

#### 太陽と月のコンジャンクション

このアスペクトは新月の日に生まれたことを意味する。このアスペクトは、太陽と月の光を直結させるため、日常生活は活気に満ち、生き生きとしたはりのある毎日を過ごす。さまざまな気付きが生まれるので、日常生活がそのまま自分を向上させる道になる。しかし、体調の影響がストレートに精神面に現れやすくなるので、体調の良し悪しが、集中力や客観性に影響を与える。

#### 太陽と月のセクスティル／トリン

このアスペクトは、三日月の日に生まれたことを意味する。このアスペクトは、太陽と月の光を調和させるため、意思や感情が無言のうちに日常の立ち振る舞いにはっきりと表れる。そのため、自分の進みたい方向を周囲の人に

的確に伝えることができる。意思・感情と立ち振る舞いが一致しているため、周囲から誤解されることはない。気配りが行き届き、表現も的確で、立ち振る舞いは自然と明るく自信に満ちたものになる。

## 太陽と月のスクエア

このアスペクトは、半月の日に生まれたことを意味する。このアスペクトは、太陽と月の光の結び付きを過剰・過多にし、しばしば問題を生じさせるため、あなたの日常的な立ち振る舞いからは、あなたの意思(進みたい方向)が、少しも伝わらない。そのため、あなたは、いつも自分は他人から誤解されていて、本当の自分をわかってもらえないと感じるようになる。この不満・葛藤・苛立ちは、長い間にいつのまにか、クセ・態度・顔のしわ等になって定着してしまう。

## 太陽と月のオポジション

このアスペクトは、満月の日に生まれたことを意味する。このアスペクトは、太陽と月の光を不安定なかたちで結び付けるため、あなたのなかでは、いつも、意思(向上心)と、惰性に身を委ねたいという思いがぶつかっている。そのため、こみあげてくる感情や身体的な感覚をしばしばコントロールできなくなる。感情表現が過度になったり、あるいは逆にぎこちなくなったりする傾向が生じる。性格は、きつくなりやすく、ときには自己表現が荒々しく乱暴になる。

## 占星医学

### メロテシア

太陽と月のメロテシアは下記の通りである。太陽と月の両方が関係するのは、循環器系である。



- ・**太陽** …循環器系(心臓)、背中、ビタミン・酵素・ミネラル。昼の意識、意識レベル、目の輝き。
- ・**月** ……細胞レベルの活力維持、循環器系(大脳辺縁系)、消化器系全般(特に胃と膵臓)、生殖系(子宮、乳房)、免疫系(リンパ系)、バイオリズム(体温、血圧、心拍数の周期的変化、睡眠と覚醒の周期、生理の周期)。夜の意識、直感、記憶。

## 調和

太陽と月が調和していれば、意識水準が高まる。その結果、意識はすっきり晴れ渡り、意欲、集中力、持続力、記憶力が増す。頭脳も明晰になる。身体も、若々しく、健康的で、動作も歯切れがよく、活発になる。《昼の意識》と《夜の意識》が調和しているので、意識と身体が調和し、生活のリズムもよくなる。生活に張りが出て、向上心にあふれる。消化器系(月)も、生殖系(月)も健康になる。

## 不調和

太陽と月が不調和だと、意識水準が不安定になったり、下がったりする。意欲、集中力、持続力、記憶力が低下する。頭脳のはたらきも鈍る。気分も不安定になる。身体も、調子が悪くなり、活力が低下する。《昼の意識》と《夜の意識》が不調和なので、意識と身体がかみ合わず、生活のリズムも乱れる。生活に張りがなくなり、向上心が衰える。消化器系(月)も、生殖系(月)も、調子が悪くなり、不安定になる。

## 生理学

心臓(太陽)の送り出す血液は、ビタミン・酵素・ミネラルを大脳辺縁系(月)に運び、その機能に影響を与える。具体的には、体温、血圧、心拍数の周期的変化、睡眠と覚醒の周期、生理の周期に影響が出る。

- ・**調和** …朝から元気、快眠、一日中元気で疲れない、陽気、活発。
- ・**不調** …朝起きるのがつらい、眠れない(不眠)、午前中は能率が悪い、目の輝きがない、だるい、不機嫌、不活発。

## 太陽と水星

### 基本

#### 組み合わせの基本的な意味

太陽は、活気・意欲・気力・向上心を与える。水星は、計数能力・分析力・表現力(言語化能力)・環境順応力・学習能力を与える。この二つの光の間には、摩擦が生じることはなく、常に一体で作用する。

出生天球図における太陽と水星は、30度以上離れることはない。つまり、太陽と水星は、けっして対立しない。両者が一体であるとの考えは、両者が調和のアスペクトしかつづらないという天文学的事実をもとにしている。

以上の基本的なことに、主要なアスペクトの意味を加味すると、下記のようにさらに詳細化される:

#### 太陽と水星のコンジャンクション

このアスペクトは、太陽と水星の光を直結させるため、計数能力・分析力・表現力(言語化能力)・環境順応力・学習能力が高まる。その結果、精神活動が活性化し、意識は明晰になり、言葉による表現力が増す。創造性も豊かになる。話し方は流暢で理路整然とする。難点は、やや主観的になる傾向が生じることである。

進行法においては、以上のほかに約束や契約を結ぶよい時機という意味が加わる。これは、計数能力と分析力が増して、細部まで注意が行き届くようになり、見落としがなくなることによる。